

ふるさと会瀬から

正門橋（常磐線架橋）

近隣の皆様にと鉄道工事のお知らせが二枚配布された。一枚はJR水戸支社からで、正門橋跨線道路補修工事、完成予定日は平成30年2月中旬とある。もう一枚は市役所道路建設課からで夜間、橋の舗装工事をする知らせであった。昭和46年（1971年）に二度目の架橋をしてから46年。最近は橋と道路に段差ができて、大型トラックが通るたびに振動と、大きな音が発生していた。最初の橋はいつ作られたのだろうか

昭和17年4月（1942年）会瀬国民学校初等科1年に入学した。住居は旭町で通学は集団登校だった。通学路は相賀町内だったが、正門橋はなかった。線路沿いの細い坂道を下り、線路を横切り再び坂道を上がり線路に沿った道を利用し登校した。

昭和20年（1945年）6月、アメリカ軍による爆撃攻撃で大きな被害を受けた日の午後、私は正門橋を渡り、道路に置かれた不発の1トン爆弾を見ている。黄色の火薬の色は今でも脳裏にある。その日、上空から撮影したアメリカ軍の写真にも正門橋は破壊されずに写っている。

皆川さん会瀬小の歴史など

株)マイステック関社長さん
仕事についての講話



☆6年生 総合学習「伝え合おう！」
日本のよさ・日本の心
①茶道 ②華道 ③和裁（刺し子）
④百人一首 ⑤墨絵 ⑥書道（仮名文字）
⑦浄瑠璃



12月8日各講師を招待して
各グループが発表を行う。



☆2年生音楽科「日本の音楽に親しもう」

会瀬浜太鼓の指導者
子どもたちは覚えが早い

☆5年生家庭科「ひと針に心をこめて」

男の子どもたちも上手

海老澤 公氏を悼む

地域のさまざまな行事をビデオ撮影した海老澤 公氏（会瀬1丁目）が10月23日94歳の生涯を閉じました。撮影した数々のビデオは多くの人びとに喜びや感動を、そして安らぎを与えてくれました。それらの記録は、地域の自治活動にとっても貴重な財産となり、今後の活動の原動力でもあります。将来にわたる大切な遺産でもあります。

海老澤さんは日立製作所の水力発電のエンジニアとして勤め上げ、定年退職後に趣味としてビデオ撮影に取り組みました。撮影中の生き生きとした姿は、地域の子どものたちや住民の目に焼き付けられているでしょう。

昭和17年から昭和20年の間に正門橋は作られたのだが、いつだったのか。正門橋を必ず利用したのは相賀町・旭町から会瀬小学校へ通った子ども達。その子たちも現在80歳前後、何人かに聞いてみたが誰も記憶していない。相賀町に住んでいた故加納芳徳氏（昭和18年会瀬小入学）の戦争回顧録には、正門橋は昭和18年頃に作られたと記している。当時の戦局から考えられることは、昭和19年は敗色濃厚となり、日立製作所内でも職場の戦闘態勢を強化する方針がとられている。金属類回収も実施されている時勢に橋を建設することは不可能だ。となると、昭和18年に建設されたことになる。記録はない。当時の茨城新聞2年間の記事には一言も出ていない。市役所の記録にもない。戦時中は制約が厳しく、軍事に絡むこと一切が公にされなかったからだ。橋の建設も秘密にされたのだった。橋の名称の由来も定かでないが、場所と時勢に合っていることには違いない。

正門橋の完成を一番喜んだのは小学生。車など一台も通らなかつた橋。蒸気と煙をもうもうとあげ、轟音とともに通過する蒸気機関車。煙ですっぽりと覆われた橋。右側から左へ、左から右へと歓声を上げて走り回っていた子どもたち。

エピソード 会瀬の定置網漁業の実際を撮影するため、漁船に乗り漁場に向かいました。あいにくと不漁で、絵になるような魚は獲れません。作業の様子や漁師の話など取材し終了しました。出来上がったビデオを見てびっくりしました。あの日一挙に行った時には不漁だったのに大きなカジマグロをはじめとして大漁の様子が写っていました。すばらしい光景が画面いっぱいひろがっていました。海老澤さんは納得いく画面を求めて再度、漁場に行つたのです。編集に際しては同道者に気を配つたもので、何の違和感もない立派な作品でした。

長い間ありがとうございました。
ご冥福をお祈り申し上げます。